

施策マネジメントシート ～令和5年度の振り返りから令和6年度の取組へ～

①計画⇒実施（Plan⇒Do）（5月中に記入）

長期振興計画 の位置づけ	まちづくり分野		ひと分野			担当課		教育総務課・学校教育課			
	政策分野		子育て・教育			課長名		川畑利昭・常山隆治			
	施策		15 学校教育の充実			重点施策の該当		R5	-	R6	-
施策の目的	対象	児童、生徒、保護者、教職員			意図	これからの社会を担い、自らの未来をたくましく切り拓く「ひとりだち」の力を備えた児童生徒を育成する					

施策の目標指標

目標指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					
	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度目標	令和7年度目標
鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が80%を超えた教科数(小学校全40教科)	22	32	33	31 (40)	(40)	(40)
鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が70%を超えた教科数(中学校全10教科)	9	9	7	7 (10)	(10)	(10)
不登校(年間30日以上欠席)の小・中学校児童・生徒数の全体における割合(%)	1.1	2.5	3.60	4.3 (0.0)	(0.0)	(0.0)
体力・運動能力調査(小5・中2,男女別全32種目)で県平均を上回った種目数	26	27	30	18 (32)	(32)	(32)

市民アンケート調査の結果(施策に関する重要度と満足度)

令和3年度実績		令和4年度実績		令和5年度実績		令和6年度実績		令和7年度実績	
重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)	重要度(%)	満足度(%)
84.1	32.8	86.1	33.4	83.8	30.2				
重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI	重要度DI	満足度DI
82.6	15.7	84.4	15.5	82.3	9.1				

施策推進のための取組の成果を測る指標

基本事業名	関連 戦略 No.	成果指標(単位)	指標の推移(下段の()書きは当初見込み値)					
			2年度実績	3年度実績	4年度実績	5年度実績	6年度目標	7年度目標
自ら学び自立する力をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28 12-31	鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が80%を超えた教科数(小学校全40教科)	22	32	33	31 (40)	(40)	(40)
自ら学び自立する力をはぐくむ教育の推進		鹿児島学習定着度調査における「基礎・基本」分野の通過率が70%を超えた教科数(中学校全10教科)	9	9	7	7 (10)	(10)	(10)
規範意識を養い、豊かな心をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28	不登校(年間30日以上欠席)の小・中学校児童・生徒数の全体における割合(%)	1.1	2.5	3.6	4.3 (0.0)	(0.0)	(0.0)
健やかな体をはぐくむ教育の推進	11-27 11-28	体力・運動能力調査(小5・中2,男女別全32種目)で県平均を上回った種目数	26	27	30	18 (32)	(32)	(32)
健やかな体をはぐくむ教育の推進		小学生DMF指数(過去にむし歯になったことがある数値)	1.7	1.3	1.6	0.8 (1.0)	(1.0)	(1.0)
健やかな体をはぐくむ教育の推進		中学生DMF指数(過去にむし歯になったことがある数値)	1.6	2.2	1.6	2.5 (1.2)	(1.2)	(1.2)
教育環境の整備・充実	11-27 11-29	各学校からの修繕要望に対し、修繕を実施できた割合(%)	46.1	41	79.8	86.3 (48.0)	(49.0)	(50.0)
教育環境の整備・充実	12-31	奨学資金返還免除制度の新規猶予申請する者の数(人)	0	3	1	4 (2)	(2)	(2)

施策マネジメントシート ～令和5年度の振り返りから令和6年度の取組へ～

②-1 振り返り(Check)

施策を取り巻く環境変化・市民ニーズ等への対応		
[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	・学習指導要領に基づいた学力の定着が求められる。 ・不登校の状態にある児童生徒へのよりきめ細やかな対応が求められる。	
[教育総務課] 基本事業No.54	・校舎のほとんどが老朽化による危険性が年々増加の傾向にある。また、児童生徒が減少の傾向にあることから、今後の学校の在り方の検討が必要となってきた。 ・馬毛島の影響により、教職員の住宅不足や再編交付金事業の増加が問題となっている。 ・人口減に伴い労働者不足が深刻になっている。免除制度の周知充実を図り若者定住増加が求められる。	
施策の成果（貢献度の高い事業等）と現状・課題		
	成果	現状・課題
[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	・鹿児島学習定着度調査においては、学力の向上において着実に成果が得られている。 ・不登校の児童生徒に対する個別の実態を踏まえた組織的な関わりや関係機関との連携の充実が図られている。スクールソーシャルワーカーとの連携による効果がみられる。 ・体育・健康面の指標については、継続した取組により確実に子供一人一人に力が付いてきている。	・授業改善や個別指導を通して、知識・技能の習得や、それらを活用する力の定着を図り、自ら考え、表現する力を獲得させていく必要がある。複式学習指導法研修会、ICTの利活用に関する研修会などを通して、教職員の授業力アップを図る。 ・不登校の状態にある児童生徒の割合はほぼ横ばいとなっている。子供の実態をよりの確に捉え、個に応じた対応に努める必要がある。さらにスクールソーシャルワーカーの活用を通して、家庭との連携を進め、児童生徒を取り巻く環境の改善を図る。小学校への対応が急務である。 ・体育・保健面の指標については、児童生徒の屋外での活動がコロナ禍以前に戻ってきていることも踏まえ、日常の体力づくりや、個に応じた体力・技能の向上を図る必要がある。 ・う歯治療に向けた保護者への啓発や、予防歯科への取組をさらに充実させていく。
[教育総務課] 基本事業No.54	・学校図書システムについては、再編交付金を活用して全校への配置と、市立図書館システムとの連携により図書利活用の充実が図られるよう整備ができた。以後データの登録を早急に整え、一刻も早い本稼働を目指すこととしている。 ・教職員住宅や屋内運動場、防犯対策事業等の実施設計が完了し、令和6年度から順次改修工事を行うことができるようになった。引き続き改修計画に基づき事業を進めていく。 ・その他、突発的な修繕依頼については、現場の状況を確認しながら、迅速に対応するよう努めており、学校からの評価も一定得ているところである。	・学校施設について、校舎については一部の学校を除いて多くが老朽化しており、爆裂などによる危険性も増加傾向にある。校舎以外の屋内運動場や屋外運動場については順次改修することとしているが、児童数の減少について今後の在り方等検討していく必要がある。 ・スクールバスについて、老朽化により修繕が多くなってきていることから早い段階での更新が必要。再編交付金による更新も検討中。また、対象地域以外のPTAからスクールバスが活用できるよう要請があるが、現台数や路線数では対応は不可能であり、今後の検討が必要。 ・教職員住宅について、学校施設同様老朽化が進んでいると同時に住宅設備においても改修が求められている。改修計画を策定しており、順次改修を行っていくこととしている。また、馬毛島関係で住宅確保が困難となることから、教職員住宅の需要が高まってきている。 ・奨学金の収納状況については滞納が多く残っているところであるが、コンビニ収納や定期的な催告通知、また分納相談等受けながら少しずつ滞納額が減ってきている状況にある。また、免除制度については、少しずつ増えているが、さらに周知を図りながら、本市への若者定住に向けた対策が必要である。
今後の方向性	今後の方向性の根拠等（他施策との連携、総合戦略との関連、環境変化等を踏まえ記入）	
拡大・充実	[学校教育課] 基本事業No.51・52・53	・教職員の研修機会の充実を図り、特に複式学習指導や個別指導に係る指導力の向上を図る。 ・スクールソーシャルワーカーの活用を通して、児童生徒の不登校の状態の改善に努める。 ・う歯保有率の低減、治療率の向上に努める。
拡大・充実	[教育総務課] 基本事業No.54	施設全般の老朽化対策や、大規模な再編交付金関連事業が続くことから、予算規模は増加することが見込まれる。加えて、業務量、職員への負担等も考えると、組織体制も含めてさらに充実させていく必要があると思量される。
②-2 政策部会による振り返り（Check）		
（6月中に記入）		
今後の方向性	政策部会で出された施策に対する意見等（将来像の実現に向けた課題や優先度、市民との協働のあり方など）	
拡大・充実	【教育振興部会】 施策担当課の記載する方向性のとおり。	